第 22 回介護・医療連携推進会議　議事録

【日　時】平成 30 年 5 月 22 日（火）　16：00～17：30
【場　所】ジャパンケア世田谷　会議室
【参加者】松原、佐藤、村上 CM、手塚 CM、二俣ＣＭ、田下
樹のはな居宅介護支援事業所　庄司様、ぺんぎん介護　福西様、松原あんしんすこやかセンター　清水様

議事録

1.開会のあいさつ（介護・医療連携推進会議の目的）
別紙開催の目的参照
医療連携推進会議の規定についての説明

２．介護・医療連携推進会議の参加者のご紹介

３．栄養セミナー
低栄養はすぐにはならない。
低栄養にならないために。
タンパク質の摂取。
脂質と糖質の摂取→オリーブオイルとごま油。
摂取カロリー→一人一人違う。要介護はお医者様からの指示に従う。
量が取れない場合は→ワンデッシュ（ドリア・グラタン）
食べられなくなった原因→人それぞれ。
どのような食事をしているのか→
社会資源について
ご自身での発注。一日コースがある。常温で一カ月持つパン。ご本人が受け取れるのか。ご家族が受け取れるのか。
無理であれば配食。
セブンミール→冷凍食品以外は揃う。ごはん、お茶、メイバランス、世田谷区全店舗宅配ＯＫ
最近暑くなって、水分（ノンカフェイン）のもの。冷たいものを摂りすぎると胃が弱る。
事例紹介
タンパクンパウダー
マクトパウダー
高カロリーゼリー
（一日 2 個）
少し+と栄養状態確保できる。

４．事業所概要
別紙参照

5. サービス提供情報の報告 意見交換
村上→地域のＣＭの周知がまだ。若い利用者家族から直接利用希望で来たことがある。
・Ｓ様→どんどん状況が変化していく中でご家族・定期巡回のヘルパーさんが頑張った。ご逝去された後でヘルパー1 人 1 人に感謝の手紙を頂いた。
・Ｉ様ご夫妻→元々訪問介護を長く利用していて段々負担が大きくなり費用面で苦しくなり、費用が足りない分は自分たちでなんとか支援しなきゃいけないんじゃないかとプレッシャーが強かった。定期巡回利用で自分の仕事を辞めないで済み、長年の重圧が取れた。ご主人がご逝去後も奥様の定期巡回は継続。
・費用面で、度重なる、いつ終わりが分からない介護の苦労のご家族様は凄いなと感じている。
荘司様
80 台独居。訪問介護だと介護拒否があり、利用して初めてシステムが分かった。空ぶっても頻回に行っていけるのがよかった。
93 歳独居、要介護 5 寝返りもままならない人を退院させようと。費用的な面で自宅に家族が戻した。
2 事業所入っている。
18：00 以降 9：00 まで誰も入らない。虐待だなと思う。
これでも駄目だったら看護多機能を利用する、それでもだめであれば入所する。などのステップになれば。

福西様
今まで 2 名ご利用。
・若林男性、サービス拒否・精神疾患あり。訪問看護が中心。転倒して仙骨部分に褥瘡ができた方。助かったのは褥瘡の処置。先生の指示のもとヘルパーが手伝って頂き頻回に入って頂き助かった。しかし、壁になっていたのが訪問看護。医療保険なら問題ないが、そうじゃない場合報酬が下がってしまう。ここまで来たので訪看さんが入ってくれた。みんなで連携できた。

松原→訪問介護の報酬についてはご意見があがっている。今でもなかなかお受けしてくれることはすくない。医療行為が必要な方にはもう少し制度が変わってくれるといい。

二俣→今まで担当させていただいた方。自宅は歩行器利用。外は難しい。
ご自宅に資源がある。（家族、友人、親戚）
家の中の生活をマイペースに楽しんでいる。
家の中を動くことで活動量が上がっている。

鈴木→タンパク質摂取のために、「はつらつ食品」
「にこにこ」塩分制限のある人。

6.閉会の挨拶